

平成 30 年 道路貨物運送業災害分析

岡山労働局

死傷災害発生状況

- ・平成 30 年の岡山県内の道路貨物運送業における死傷者数は **321 人**（前年より 36 人の増加）
- ・死傷者数は 2 年連続で増加
- ・死亡災害は 2 人（いずれも交通事故（道路）によるもの）（前年より 1 人の減少）

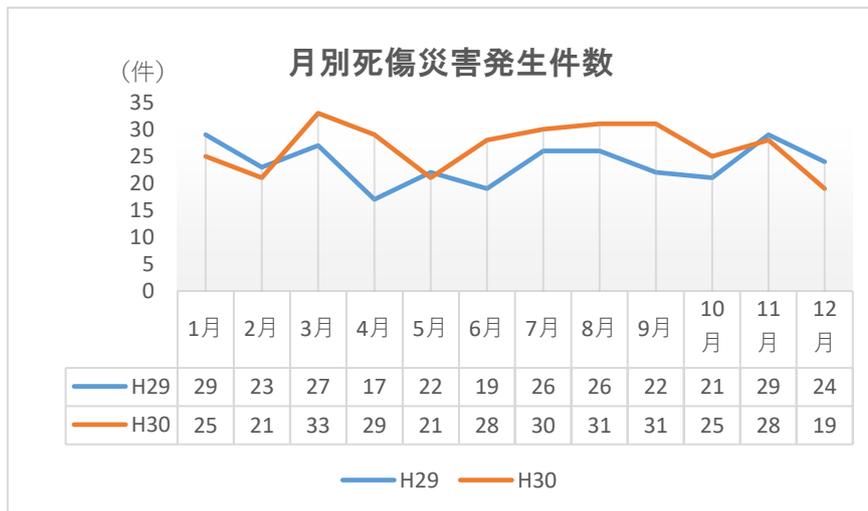
死亡災害発生事例

- ・高速道路のトンネル連続区を走行中、渋滞のため停止していたトラックに追突した。
- ・10 トントラックが切り返しを行って国道から事業場に入る際、国道上でトラックの誘導をしていたところ、走行してきた軽自動車にはねられた。

○月別死傷災害発生状況

- ・4 月は前年より 12 件の大幅な増加
- ・夏季の災害が増加

夏季需要で重量のある飲料物などが多くなったことと、お盆休みの帰省時期・7 月の西日本集中豪雨災害の復旧が重なり、荷量が増加したため災害が発生した事業所も見られた。

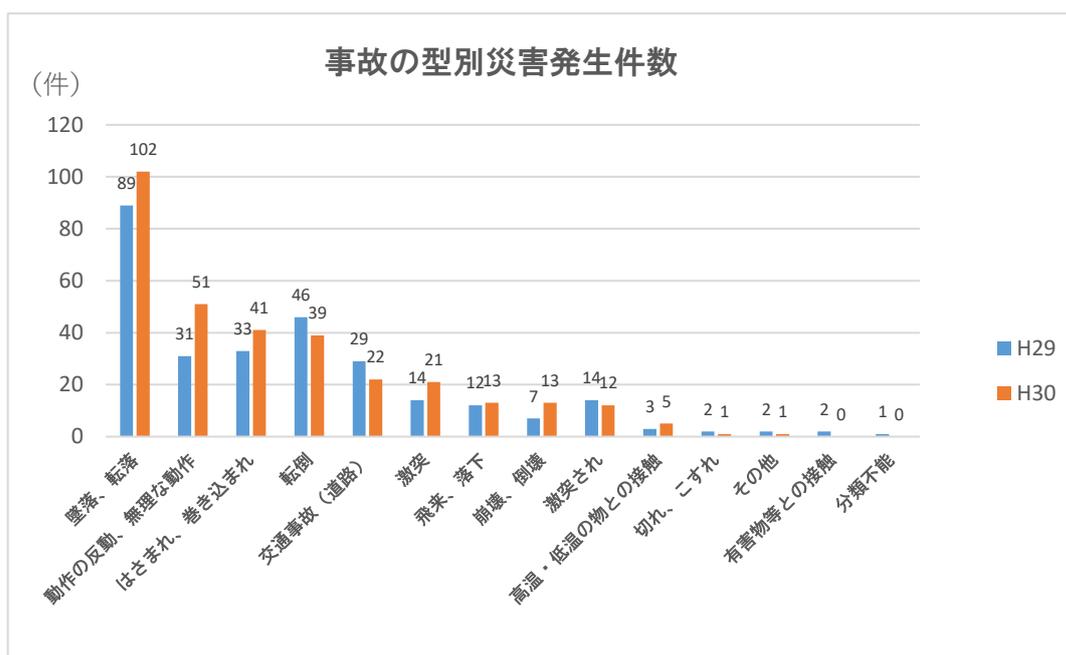


○事故の型別の状況

- ① **墜落、転落**によるもの **102 人**（31.8%）（前年より 13 人増加）
- ② **動作の反動、無理な動作**によるもの **51 人**（15.9%）（前年より 20 人増加）
- ③ **はさまれ、巻き込まれ**によるもの **41 人**（12.8%）（前年より 8 人減少）

- ④転倒によるもの 39人 (12.1%) (前年より7人減少)
- ⑤交通事故(道路)によるもの 22人 (6.9%) (前年より7人減少)

「墜落・転落」、「動作の反動・無理な動作」「はさまれ・巻き込まれ」など、荷役作業に伴って発生する労働災害が増加した。陸上貨物運送事業の労働災害は「墜落・転落」が全体の約三割を占めている。中でも、荷物の積み下ろし時にトラックの荷台等から足を踏み外すといったケースが多く見られる。また、「動作の反動、無理な動作」による災害が大幅に増加した。「交通事故(道路)」に関しては減少したものの、54.5%が深夜から早朝の時間帯(22時台から7時台)に発生していることから、十分な睡眠時間や休息の確保に配慮する必要がある。

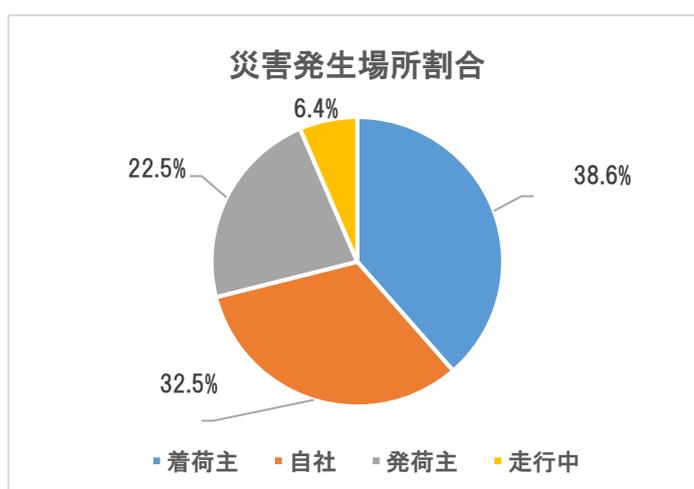


○死傷災害発生場所

- ①着荷主先での災害は 120件 (38.6%)
- ②自社での災害は 101件 (32.5%)
- ③発荷主先での災害は 70件 (22.5%)
- ④走行中の災害は 20件 (6.4%)

(*不明のものを除く)

◎荷主先での災害は全体の61.1%



○災害発生時の作業

- ・着荷主先での荷卸し作業中（墜落・転落、転倒等）の事故が68件で最も多く、全体の件数を引き上げた。
- ・発荷主先での荷積み作業中（墜落、転倒等）の事故が51件。
- ・自社では、荷物の移動中の転落や転倒、激突による災害が多く発生した。

荷役作業の多くは荷主先で行われるため、荷主先等において、単独又は荷主等の労働者と共同で作業が行われることが多い。荷主先の労働者の運転するフォークリフトに激突した事例も多く見られたので、事業者と荷主先との連携による労働災害防止対策を進めていく必要がある。また、自社での災害防止のため、労働者に対する安全衛生教育や作業場点検の徹底を通じた労働者の安全意識の向上が求められる。

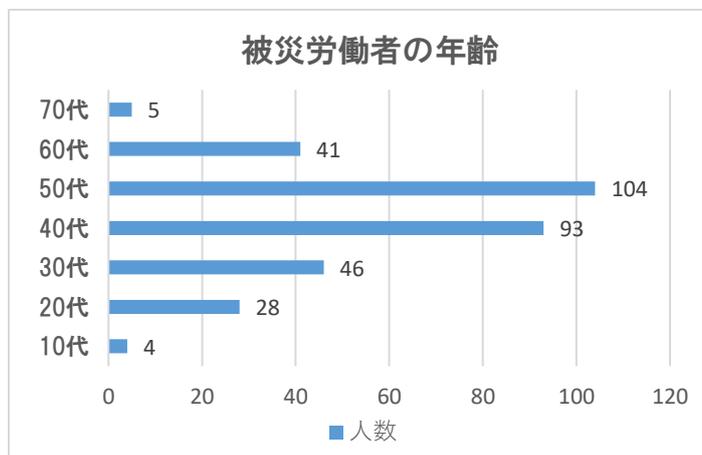
○被災労働者の年齢

50代が最も多く104人（32.4%）

次いで40代が93人（29.0%）

30代が46人（14.3%）

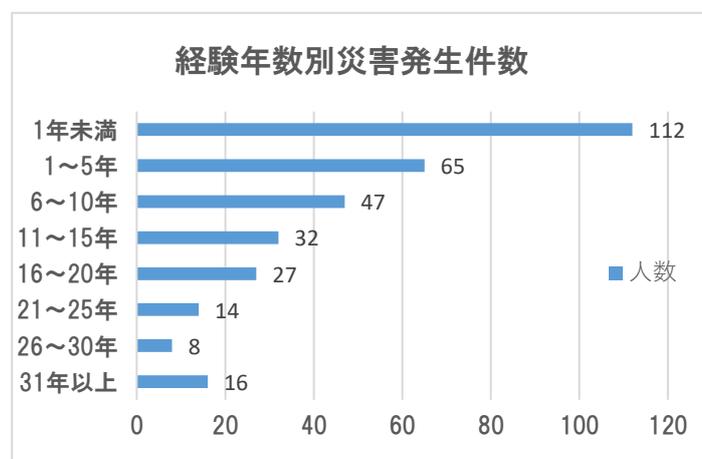
現在の道路貨物運送業は40代から50代の中高年層の労働者に依存している。道路貨物運送業就業者の全体に占める高年齢就業者の割合は、全産業平均に比べると低い一方、全産業平均に比べ、若手就業者の割合が低い。道路貨物運送業における労働者の高齢化の進展に伴い、災害発生件数が増加傾向にあると考えられる。



○被災労働者の経験年数

・被災労働者321人のうち112人（約34.9%）が経験年数1年未満の労働者であった。（前年は62人）

全体の5割以上が経験年数5年以下の労働者であり、災害発生は、経験年数が少ない労働者ほど多い傾向がある。道路貨物運送業においては、全国的な人手不足により新規の参入者が増加した。このことにより、人材の質



の維持や現場管理が難しくなったことが死傷災害増加の要因として考えられる。経験の浅い労働者は職場における危険を察知することが難しいことから、新規採用者に対する安全教育の徹底が求められる。